



BALL PARK CURRICULUM ースポーツ教育による4つのゴールー 「静」→「動」へ変化

GSA APPROACH | GSAの具体的アプローチメソッド

SEP. 2025

- GSA | Ball Park MVV
- ボールパーク4つのゴール
- スポーツ脳科学によるゴール
- 非認知能力によるゴール
- コーディネーション能力によるゴール
- 習慣化によるゴール
- ボールパークの「楽しむ」源泉項目
- 年間カリキュラム
- 1日タイムスケジュール
- 球技特性による教育的価値と選択肢の拡大
- 親（親子）ボールパーク習慣化ステップ教育
- GSAの独自アプローチ コーチ紹介

□ Mission

子どもたちを“自活へ導く” サードプレイスをつくる

学校や家庭では学びきれない“自ら考え行動する力”
を育む第三の場所

□ Vision

自然に子どもたちが世界に出ていける状態をつくる

無理なく、自然に。子どもたちが自らの力で世界へ
羽ばたいていく、その土台を育む場所

□ Value

スポーツ×教育×ビジネスの進化版をつくるチーム

スポーツと教育の現場に、ビジネスの視点を融合
子どもたちの未来に、本質的に必要な価値を創出



GSA | Ball Park カリキュラム

スポーツ脳科学 × 非認知能力 × コーディネーション能力 × 習慣化

BALL PARKのスポーツ教育は、4つの視点から
子どもの成長を導き、未来を担う“自活力”を育てること

子どもの1年後の姿(ゴール)

スポーツ脳科学

やる気を引き出し、“挑戦する”子どもへ

非認知能力

学力では測れない、“生きる力を伸ばし、自ら考える”子どもへ

コーディネーション能力

体を自在に操り、自信を持って“積極的に動く”子どもへ

習慣化

成長のサイクルを身につけ、“自ら考えて行動する”子どもへ

スポーツ脳科学的ゴール ⇒ 自らの意志が、挑戦する子どもへ変化

前向きな姿勢4要素 ⇒ 脳を活性化し、考える力・記憶力・やる気を高める

① ポジティブ感情

- ・仲間との喜びや感謝を共有し、幸福度を高めストレスを軽減
- ・困難を「学びの機会」と捉え、前向きに行動できる

② 自己肯定(自己効力感)

- ・「できた！」の体験を積み重ね、自信を育む
- ・自分の強みを理解し、挑戦に活かせる

③ 挑戦意欲

- ・アスリートの経験を学び、挑戦の喜びを知る
- ・新しいことへの挑戦が自己成長を促す

④ 楽観性(失敗を学びに)

- ・「失敗してもいい」環境が自己発信と行動を引き出す
- ・失敗を成長の糧とし、希望を持って挑戦を続けられる



・前頭前野を活性化 ⇒ 考える力／判断力が育つ

・海馬を刺激 ⇒ 記憶力／学習力が向上

・小脳が発達 ⇒ 身体動作の自動化／運動神経アップ

・報酬系(ドーパミン)が働く ⇒ やる気／挑戦意欲が高まる

脳科学的アプローチ ⇒ スポーツで脳を鍛える方法

□ 集中力を鍛え、地頭(※g因子)をよくする方法

- ① 勉強や仕事は*いきなりトップスピードでやる*（前頭葉の地頭の集中力を高める）
⇒ゲーム性を高めたプログラム
- ② *ノイズのあるところ*で仕事する（記憶、集中力の強化）
⇒仲間の存在（大人数で取り組む環境）
- ③ *ルーティンの中に自分を入れる*（集中力を高める習慣をつくる）
⇒習慣化プログラムの実践
- ④ *タイムプレッシャー*をかける（制限時間を決めることで限界を超える）
⇒タイムトライアルゲーム（時間設定によるゲーム方式）

□ 脳の能力を最大限高める方法

- ① *ゲーミフィケーション*を取り入れる（ゲーム要素／目標の明確化／テーマ設定）
- ② *生の体験*をする（自分で工夫／実体験）
- ③ *脳に良い栄養素*を積極的に摂取する（DHA、ポリフェノール ⇒ 記憶力／集中力）

※g因子は、粒子や原子核の磁気モーメントを特徴づける無次元量であり、知能における一般因子を指す

非認知能力によるゴール

⇒ 子どもは“指示待ち”から脱却し、考えて動く次世代のリーダーへと成長

- ① **意欲** やる気を引き出し、継続する力
(ポイント) 目標・成功体験・楽しさ・仲間の影響
- ② **忍耐力** 困難に向き合い、あきらめず努力する力
(ポイント) 継続・成長・ストレス耐性・目標達成に関与
- ③ **自制心** 感情や欲求をコントロールする力
(ポイント) 冷静な判断・誘惑の対処・集中力
- ④ **協調性** 他者と協力し、チームで力を発揮する力
(ポイント) 信頼関係・対立回避・貢献の姿勢
- ⑤ **対応力** 変化に柔軟に適応する力
(ポイント) 問題対応・環境順応・挑戦への前向きさ
- ⑥ **創造力** 新しい価値やアイデアを生み出す力
(ポイント) 柔軟な発想・独自性・変化対応
- ⑦ **行動力** すぐ動き、やり遂げる力
(ポイント) チャンスをつかむ力・試行錯誤・実行力

「できる」
「少しできる」
「まだできない」
などの段階で記録



非認知能力を定性評価し、
「自活力」を体得する
(自ら考え、行動する力)

コーディネーション能力によるゴール

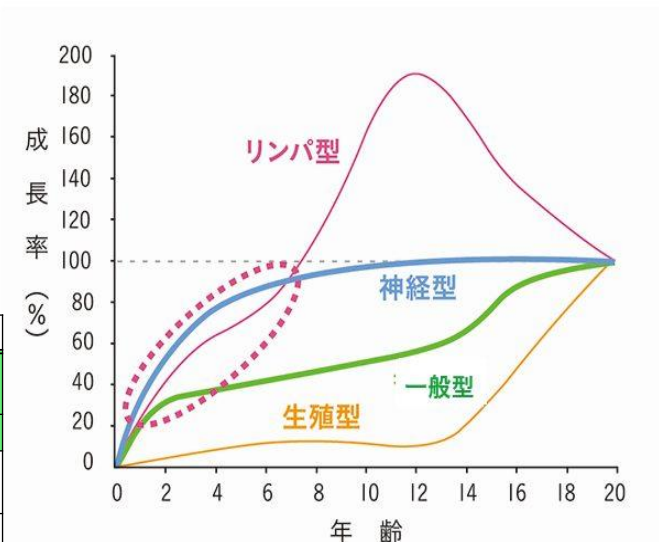
⇒ 体を自在に操り、自信を持って積極的に動く子どもへ

育成年代のステージ分け

名称	年齢	対象期	トレーニング要素
プレ・ゴールデンエイジ	5歳～8歳	幼稚園・小学校低学年	スキルと動きの体操
ゴールデンエイジ	9歳～12歳	小学校高学年	スキルと動きの習得
ポスト・ゴールデンエイジ	13歳～15歳	中学生	スタミナ
インディペンデントエイジ	16歳～18歳	高校生	筋力

7つのコーディネーション能力

名称	役割
定位能力	相手やボールなどと自分の位置関係を正確に把握する能力
変換能力	状況に合わせて素早く動作を切り替える能力
連結能力	関節や筋肉の動きをタイミングよく同調させる能力
反応能力	合図に素早く正確に対応できる能力
識別能力	手や足、用具などを精密に操作する能力
リズム能力	動きを真似したりイメージを表現する能力(リズム感)
バランス能力	空間や移動中における身体のバランスを維持し崩れた体勢を立て直す能力



「スキャモンの発達曲線」
0歳からの人の成長発育を20歳を100%として考え、
ヒトの器官や機能の発育、発達には「リンパ型」「神経型」
「一般型」「生殖型」の4つのパターンに分類される。脳神
経や視神経などの神経は、生まれた直後から6歳ごろま
でに成人の80～90%まで発達し、12歳ごろに100%
近くなる。

参考文献:『発達のめやす』ジャック幼児教育研究所

習慣化によるゴール

⇒ 成長のサイクルを身につけ、“自ら考えて行動する”強い子どもへ

習慣化の4つのステップ

きっかけ



欲 求



反 応



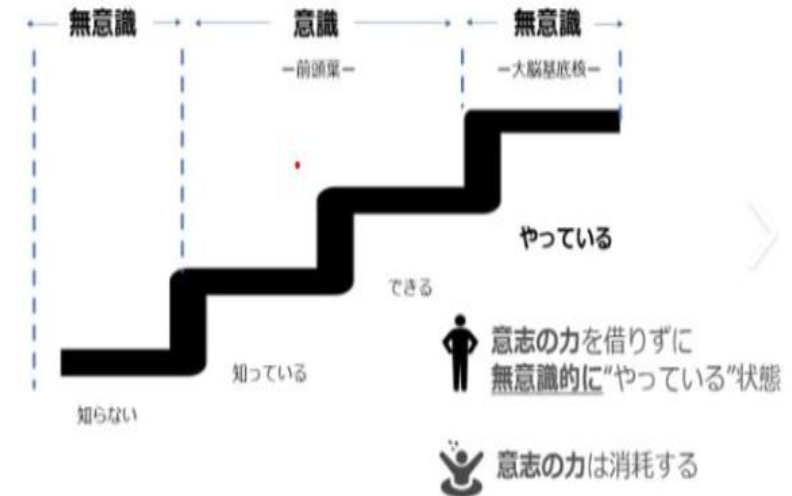
報 酬

「楽しむ」3原則 ①成功体験 ②競争
③仲間存在を知る機会を作り、自ら「考える準備」を促す

「やってみたい」「成功したい」という気持ちを引き出す

実際に自分で判断し、行動に移す

「できた」「工夫できた」と実感できる
成功体験を得て、向上心を抱く



参考文献:「複利で伸びる1つの習慣」ジェームズ・クリア

このサイクルを毎回繰り返すことで、“自ら考えて行動する習慣”を自然(無意識)に育むことができる

①

■ 「成功」体験

- ・成功する喜びを体感し「笑顔」が増える
- ・小さな成功が、意欲的になる

②

■ 競争

- ・勝敗にかかわらず、競争する喜びを知る
- ・相手の存在から、リスペクトを覚える

③

■ 「仲間」の存在

- ・仲間と協力する喜びを知る
- ・仲間と助け合う心を学び、信頼関係を築く

■ 「失敗」の克服

- ・努力して達成する喜びを知る
- ・諦めない強い心が育まれる

■ 夢中

- ・好きなこと、興味のあることを見つける
- ・集中力が育まれる

■ 貢献

- ・仲間のため、チームのために行動する喜びを知る
- ・「貢献」することがチーム力に繋がることを知る

■ 評価

- ・指導者や仲間から、褒められる喜びを知る
- ・成長を実感する喜びを知る

■ 挑戦

- ・一歩踏み出す勇気をつくる
- ・失敗を恐れない心が育まれる

ENJOY

GSAが掲げる「楽しむ」源泉項目

年間カリキュラム(非認知能力・コーディネーション能力・習慣化ステップ)

ゴール:子どもの成長を導き、未来を担う“自活力”を育てる

月	テーマ(「楽しむ」源泉項目)	非認知能力	コーディネーション能力	習慣化のステップ	球技スポーツ
1-4カ月	成功体験・競争・仲間の存在	意欲・忍耐力	定位・変換	【きっかけ】体を動かす”楽しい”を感じる	ラグビー・野球
5-8カ月	失敗の克服・夢中・貢献	自制心・協調性	連結・反応	【欲求】失敗経験からチャレンジする意欲	サッカー・ハンドボール
9-12カ月	評価・挑戦	対応力・創造力・行動力	識別・リズム・バランス	【反応】チーム貢献による協力的行動 【報酬】強みの発見と活用	フライングフットボール・ラウンドネット
1-12カ月 (1年後のゴール)	自身の「楽しむ」源泉を知り、 継続力のある子どもへ	生きる力を伸ばし、自ら考える子どもへ	体を自在に操り、自信を持って積極的に 動く子どもへ	成長のサイクルを身につけ、“自ら考えて行動す る”子どもへ	多球技スポーツ経験・スキルアップ

□ 多球技スポーツ経験を通じて、子どもの球技選択肢を広げると共に、子どもに合うスポーツを見つける

□ スタート月(入会)は自由“いつでも安心して受けられる”

1日タイムスケジュール(次回へ繋げる習慣化サイクル)

ゴール:「きっかけ～報酬」体験を経て、次回へ繋げる

時間60min (Total)	内容	目的	習慣化ステップ	コーチ(レクチャー)
0-5 (5min)	オープニング+テーマ発表	心と体の準備	きっかけ	目的/アスリートコーチ経験談
5-15 (10min)	フィジカル	準備運動とコーディネーション能力	きっかけ+欲求	W-up(習慣化ステップのスタート)
15-25 (10min)	ボールフィーリング	球技特化型スキル(様々なボール)	反応	球技特性が生む成功体験と失敗談
25-40 (15min)	ゲーム	課題解決ゲーム	反応+報酬	「楽しむ」源泉項目の説明 ①成功体験②競争③仲間の存在
40-55 (15min)	ゲーム	球技特化型ゲーム	報酬	達成感・成功体験による モチベーション維持
55-60 (5min)	クロージング	フィードバック	次回へのきっかけ	アスリートコーチによるポジティブコメント (次回へ繋げるため)

□ 1度の体験から成長を実感し、「次も来たい」と思えるプログラム

球技特性による教育的価値

① 多様な身体スキルの獲得

- ・異なる球技を通じて、さまざまな動き方・道具の扱い方・身体の使い方を経験できる
- ・コーディネーション能力(反応・バランス・空間認知など)が自然と育つ

② 課題対応力・適応力の育成

- ・球技ごとにルールや戦術が異なるため、変化への柔軟な対応力が鍛えられる
- ・環境の違いを楽しみながら、応用力、問題解決力が身につく

③ 非認知能力の発達

- ・チームプレーでは、協調性、自己制御、忍耐力、意欲などが問われる
- ・多様な状況での経験が、自己肯定感や内省力の成長につながる

④ 得意・不得意の違いを理解する

- ・競技によって得意、不得意が変わることで、他者への理解、自己理解が深まる
- ・「誰もが得意な場面を持てる」経験が他者受容、共感力を育てる

⑤ 自分に合ったスポーツとの出会い

- ・幼児期、小学生期に多球技を体験することで、自分に合った競技やスタイルを見つけやすくなる
- ・将来のスポーツ継続率、自発的な選択につながる

球技特性による動作取得と課題解決

(例1)

- ① 種目
 - ・ラグビー／ハンドボール
- ② 目的
 - ・仲間と連携しながら「状況判断」をする力を育てる
 - ・ボールを持たないときの「周囲を見て動く力」を伸ばす
 - ・攻守の切り替えを素早く行う柔軟性を育てる
- ③ ポイント
 - ・チーム内で作戦を話し合い、自分たちでプレーを組み立てる
 - ・「パスをつなぐ」「スペースを見つける」など考える場面を多く設定

(例2)

- ① 種目
 - ・野球／ラウンドネット
- ② 目的
 - ・ボールを打つ、キャッチする、パスする動作の中でタイミングを読む力を育てる
 - ・ラリーを続けるために「相手を思いやるコントロール力」を養う
 - ・プレッシャー下でも冷静に判断し、行動できる力を高める
- ③ ポイント
 - ・「次に何をするか？」を子ども自身に考えさせながらプレーさせる
 - ・ラウンドネットではラリーが続く喜びを感じながら協調性も育む

親（親子）がアスリートから学ぶ「ボールパーク習慣化ステップ教育」（1回／月）

講義

アスリート経験による習慣化とモチベーションについて

実技

多球技経験による習慣化モデルの構築
きっかけ⇒欲求⇒反応⇒報酬

教育における

“Scaffolding :
スキャフォールディング”

足場かけ

レベルUpへのいつかなくなる小さなサポート



習慣化

意識 ⇄ 無意識（連続）⇒ 習慣化

複利で成長を促す仕組み

子どもたちをGOALへ導くコーチ陣



斉藤祐也
(ラグビー元日本代表)

- ボールパーク代表/統括
- ラグビー/ボールゲーム担当

【ゴールへのアプローチ】

- ✓ ボールパークは誰もが成長する場所。
- ✓ スポーツが苦手な子どもにも全力でサポートする。
- ✓ 様々なゲームを通して、**考えて実行する力**を養い、**挑戦**する意欲を高める。

- 一人ひとりの強みを見出すゲーム
- トランジションゲーム(攻守切替)

※様々な局面を作ることで反応・対応力を養う



横地康介
(ハンドボール元日本代表)

- ハンドボール担当

【ゴールへのアプローチ】

- ✓ **他者の存在**を喜びに変えて、一人ひとりの強みを伸ばせられるようにゲーム設定する。
- ✓ 子どもの能力を最大限に引き出すためにサポートする。

- チャレンジゲーム(挑戦)



北原亘
(フットサル元日本代表)

- フットサル担当

【ゴールへのアプローチ】

- ✓ フットサルの特性上、ミスの起きる状況を想定し、問題と向き合う力。
- ✓ その中で仲間とコミュニケーションを図りながら**協力**して解決する。

- 課題解決ゲーム
- コミュニケーションゲーム

子どもたちをGOALへ導くコーチ陣



加藤幹典
(元プロ野球選手/ヤクルトスワローズ
入団ドラフト1位)

- 野球担当

【ゴールへのアプローチ】

- ✓ 「投げる・捕る・打つ」様々な動きの中で得意分野を見つけ出す。
- ✓ 1つの強みを見出し、自信を付けて**努力**
する楽しさを伝える。

■ チーム・ボールゲーム

安川大輔
(元社会人アメリカンフットボールトップリー
グXリーグ所属ノジマ相模原ライズ選手)

- フラグフットボール担当

【ゴールへのアプローチ】

- ✓ **ルール**を守る重要性を伝え、ゲームを通して、一人ひとりの個性を磨く。
- ✓ 作戦を立てる時間を取り、子どもの**発想力**
を引き出す。

■ タッチダウンゲーム
■ チームトークゲーム